

## 令和8年度 第1回 府市トップミーティング

日時：令和8年5月7日（木） 13：00～13：50

場所：京都ガーデンパレス 鞍馬

### ○西脇知事

時間となりましたので、令和8年度の1回目の京都府、京都市のトップミーティングを始めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。まずは、松井市長をはじめ、京都市の皆さんには府庁近辺までお越しいただきまして、どうもありがとうございました。心から御礼申し上げます。

令和6年に松井市長が就任されてから、府市トップミーティング、今年度で3年目ということになります。これまで3回ずつということで、総計で言えば7回目ということになるわけですが、この間はできる限りスピード感を持って取り組んで、具体的な成果を府民・市民の皆様にも実感していただくということで進めてまいりました。私もこの間の選挙の過程で、やはりこのような府市協調の成果も含めて、評価をいただいたというふうに思っております。

ただ、この間、人口減少の深刻化とか気候変動とか、AIによる技術革新、それから足元の中東情勢に伴います社会経済情勢、また国際環境の不安定化ということで、非常に社会のあり方が大きく変化しています。そうした中で、国内外の人々を魅了する魅力ある京都を次世代に引き継いでいくためにということで、私もこの間はわくわくする京都を目指すということで訴えてまいりました。ただ、そのためにはどうしても京都府、京都市の府市連携が不可欠だということでございますので、今回も今年度も具体的な成果が上がるような議論をしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。市長の方からも一言開会にあたってお願いいたします。

### ○松井市長

改めまして、まずは、知事、3選おめでとうございます。ある意味では、私も市長になってから2年余りでございますが、ご一緒させていただいて、府知事選挙でも、府市協調ということをお話させていただきまして、また様々な公約においても、京都市の存在も含めて配慮をいただき、誠にありがとうございます。

知事の今回の選挙の結果を受けまして、さらに府市協調を私どもとしても加速させていきたいというふうに考えております。そして、また今日は、非常にこんな立派な会場をご提供いただきまして、誠にありがとうございます。これまで府の公館に何度もお邪魔してきましたが、今日は日程的にいろいろご調整をいただき、ここの日になって、こういうホテルをご用意いただき感謝いたします。

今、知事からお話ありましたように、2年間で6回のトップミーティング、そして何より大切なことは、知事がいつも選挙戦の中でも触れておられましたが、知事と私のリーダーシップというだけではなくて、しっかり今日も3人の副知事さん、あるいは私どもの3

人の副市長、あるいは部長、局長、さらには事務方まで含めて、しっかりとその連携が取れているということが、一番大切なことだと思います。様々な課題に、府政も市政も直面しておりますので、できるだけ協力し合って、その課題を乗り越えて、そして知事がおっしゃるわくわくする京都をしっかりと京都市も一緒になってつくっていききたいというふうに思っております。

普段からコミュニケーションを取らせていただいておりますので、先ほど知事がおっしゃった、様々な中東情勢、あるいは最近における中東情勢に限らず、社会経済情勢、厳しさを増しておりますので、そうした問題、課題にしっかりと取り組んで、そして京都の持つ可能性というものをできるだけこの年度においても、協力関係を深めて、府市協調で対応できればと思っております。今日も府市の政策をしっかりと連携して、歯車を噛み合わせて、そして1足す1を2以上のものにしていくための、いろんな知恵を絞っていききたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○西脇知事

ありがとうございました。意見交換に入る前に、今回、資料をお配りしておりますけれども、これまでの合意事項に関する取組について、2点だけご報告をさせていただきたいと思っております。

まず、私の方からは、京都版 CDC の創設についての状況をご報告させていただきますけれども、現在、今年度の10月の創設を目指して準備を進めておりましたので、ここに書いてますように、府市の担当課、それから地方衛生研究所を中心に、府市職員相互に併任しながら府内の感染症情報を一体的に扱うような組織とすること。

また2つ目のポツにありますのが、府立医大、京都大学と連携した情報の収集分析、それから病院の感染症担当医とか、あと専門の看護師がおられますので、そのネットワークを構築して、有事に備えた情報共有連携体制を強化すること。

あとは、大学・企業との協力のもとで、感染症に関する自治体職員向けの講座を開催しまして、府内の自治体職員の感染症対応力の向上を図る。そんなことを機能を持たせたということで、京都府におけます感染症対応の拠点として運営したいというふうに考えておりましたので、現在準備を進めておりますので、ご協力をよろしくお願いいたしますと思っております。

市長の方からは、奨学金返済支援制度の拡充につきまして、ご報告をよろしくお願いいたします。

#### ○松井市長

はい、ありがとうございます。今の CDC も、コロナ禍において、西脇知事のリーダーシップで、当然、当時の門川市長も全面的に協力をし、府市連携で対応がなされたと思っております。昨今も、また新たな感染症、当面、差し迫った脅威ではないかもしれませんが、しかし、いつ何時、どのような感染症がまた流行するかわかりませんので、しっかりと我々も協力してまいりたいと思っております。

今、知事からお話がありました奨学金返済支援制度の拡充について、皆さんのお手元に

も配らせていただいておりますが、これは京都府においては、もう導入されてからしばらくになるわけでありましたが、非常に利用者が年々増えていて、着実な評価を得ているところでもあります。京都市域の企業の利用ということも多いということで、前回のトップミーティングでも話題にさせていただきましたように、京都市における事業実施を契機に、導入企業のさらなる拡大を図るために、学生と京都企業が出会うイベント等を通じて、知事と、そして私も自らそれぞれが参加して、この拡充された制度というものをしっかりと紹介をするというようなことで、活用を働き掛けるということが大事ではないかなと思っております。

府域全体の動向も踏まえて、制度拡充に向けた検討を開始することについて合意させていただいたところではありますが、それについて、今年度から京都府の補助額の2分の1を京都市としても補助、実施させていただく。そして、それを今申し上げましたように、導入企業をさらに拡大することが大切でありますので、6月に開催する京都ジョブ博において、これは多数の企業、あるいは学生さんも参加されるということで、そこで知事、私、あるいはそれに加えて制度導入企業にも登壇いただいて、この制度を紹介し、さらなる活用を呼びかけるPRイベントを実施したいというふうに考えます。

今後は、そうしたジョブ博の取組をはじめとして、京都府中小企業団体中央会等の経済団体、あるいは大学などとも連携して、積極的に連携してPRするとともに、企業だけではなくて、担い手不足に悩んでいる保育であるとか介護など、幅広い業界に向けた制度の広報にも取り組みたいと考えておりました。府市連携で、ぜひ学生や若者の京都での就職・定着につなげていきたいと考えております。いかがでしょうか。

#### ○西脇知事

ありがとうございます。私が知事に就任した時にすでに制度ができたばかりだったんですが、いい制度なのにあまり利用されてなかったということです。今は、だいぶ増えてきたんですけれども、中小企業の人にとってみますと、制度の周知がまだまだ足りないと思ってますので、今回、京都市の制度拡充に伴って、かなり思い切ったPRをやれば利用がもっとできるんじゃないかと。それから利用している企業とか、それを使って就職した人の声を聞くと、この制度を持っているということがその企業を選んだポイントになったという学生さんも結構おられるみたいなんで。そういう意味では、今回の市の取組をきっかけとしたPRっていうのは非常に期待しておりますので、先ほどお話のありました6月の対応については、一緒になってしっかりやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、意見交換の方に入っていきたいと思うんですが、今回も意見交換の中で合意する事項があれば、合意できる事項があれば、その都度、合意したことについては確認をしまいたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

まずは、若干流動的な話なんですけど、中東情勢に伴った最近の社会経済情勢に対してどう対応していくのかということを話題にしたいと思っております。なかなか流動的なので、話はそんなにカチツとしたことはできないかもしれないんですけど、よろしくお願ひした

いと思います。

まず、京都府。3月23日に原油価格高騰に関する特別相談窓口を設置してますし、それから業界団体とか関係機関が調査もされてますし、そこに対するいろんな聞き取りをやってます。ただ、基本的には不安感が先行しているってことは間違いないんですが、ここに来て聞いていると、やっぱり石油製品、石油精製品が非常に不足しているの、4月、5月は大丈夫だけど、その後どうなんだろうかと。それから後であると思いますが、いわゆる交通機関で燃料とかオイル、調達できない場合もあるし、調達できても大幅な価格増加があるとか、あと温泉施設で重油が足りないの、時短してるとか。あと医療関係。おむつとか手袋とか医療器具。あと公衆浴場なんかも、これも明らかに原油価格、重油価格の高騰で経営が厳しいと。その辺、供給が完全に止まっているわけでもないんですけども、やっぱり流通のところで少しずつ滞りがでてきているというようなことがあるので、このあたりについては非常に不安な声をたくさんお聞きしております。

このあたりについて、まずは松井市長の方からどういうご認識かということをお聞かせいただければありがたいと思います。

#### ○松井市長

はい。本件は、知事選挙の真っ只中にいろんなことが起こって、知事にもちょっと選挙運動を中断していただいて、もちろん公務もしておられたわけでありましたが、夜遅い時間にまたお時間いただいたりして、ありがとうございます。

府市協調で、その選挙運動期間中も含めて、霞が関、永田町への働き掛けもさせていただいて、だいぶ目詰まりの解消に向けて、国も動いていただいて、ご協力をいただいたわけでありまして、私どもとしても、府が相談窓口を3月23日に設置されて、我々は商工会議所と連携して相談窓口を設置するとともに、金融機関とか経済団体、中小企業団体等からも随時ヒアリングを行ってございまして、やはり幅広い事業者の皆さんから、あるいは関係団体の皆さんから、石油関連の原材料不足であるとか、価格の上昇についての懸念、そして危機感を伺っております。

国際情勢は、本当になかなか猫の目のように変わっていて、それに応じて、今日なんかも株価が大きく変動したりしてはいますが、その国際情勢の変動というのは我々だけでコントロールできるものではないので、いろんな悲観的な状況でも対応できるように、しっかり働き掛けをしていかなければいけないと思っております。特に我々は、報道各社の皆さんも報道いただいたように、軽油のですね、市バスの軽油っていうのが、やっぱり、あまり在庫というかストックは効きませんので、特に3月に4月分がどうなるかということで、皆さんにご心配をいただきまして、ずいぶん随意契約で高くなりましたけれど、この5月分に関して言うと、4月の下旬に決着した値段はちょっと落ち着いてきましたが、それにしてもやはり相当程度の高値になっておりますし、それは事業に影響があります。当事者としてもそういう部分もありますし、様々な京都の経済界に対する影響というのが、幅広い分野で長期化すれば及んできます。

先ほど、知事の方がいろんな事例、例えば銭湯における重油の事例などもありました。

比較的、今、銭湯の重油に関して言うと、まだなんというかこの時期は燃費がいいというか。これが長引いていくと、重油の使用量がもっと増えてくると、これ本当に経営が逼迫しますし、そういうふうに事業に応じて、しっかり府市連携して、まず実情をウォッチして、そして国に対する働き掛けも含めて、しっかりと働き掛けを緊密に行っていかなければいけないというふうに考えているところでございます。できるだけネットワーク、府市協調で感度を高くして、必要な対策を機敏に講じていかなければいけないと思っております。

#### ○西脇知事

国の方で大元のところで、例えば、話題に最近あまりまだ上がってないんですが、雇用調整助成金の話だとか、企業なんかもいろいろ思っておられることもあるみたいなので、またそれがタイミングよくやらないといけないということもありますので、引き続き事務方の方にも絶えず情報共有をお互い行うようなことで、国への要望も含めて一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

#### ○松井市長

ぜひよろしくお願ひします。

#### ○西脇知事

じゃあ2つ目の話題、子育て関係でお話をさせていただきます。私も知事就任以来、子育て環境日本一 京都の実現を府政の一丁目一番地としましたし、今回の選挙戦を通じても、やっぱり特に2期目の時には京都版ミニ・ミュンヘンとか、親子誰でも通園とか、京都ブレコンとか、様々な全国に先駆けた制度にもチャレンジしましたけど、やっぱり働くことと子育ての両立というところが、特に若い世代の話を知ると非常に強かったなというように、そういうことも重点において今進めています「京都府子育て環境日本一推進戦略」は改定したいとは思っているんです。だから、これからいろいろなことは考えていくんですけども、今日は、特に松井市長の方からは、京都市における子育て環境施策の中身について、具体的な提案があればよろしくお願ひしたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひします。

#### ○松井市長

はい、ありがとうございます。今、申し上げましたような物価高騰が続いている中で、やはりそれが家計を圧迫していて、それは子育て環境に対しても大変大きな課題となっておりますのでございます。

これは令和5年、門川市長の任期の一番終わりの方に、小学生までの子どもさんの医療費について、1医療機関月200円というような制度改正が実現をして、その後、私は市長選挙の時の公約の中にも、それをできることならば、中学生まで延ばしていきたいということをお願ひしてまいりました。これは京都市会も令和5年の年末でしたか、全会一致の議決

で、府市協調で、これは自治体独自の取り組みですので、府市協調でしっかりと取り組むことが大事だという、そういう決議もいただいておりますので、それも踏まえて府の方に実務的にもずっとお願いをさせていただいてきて、これまで何度も福祉医療制度のあり方に関する意見聴取会議を開催してきていただいているところであります。

私どもとしては、もうここに及ぶと、一刻も早く中学生の通院の自己負担について、現行の月 1,500 円、1 医療機関 1,500 円というところから、小学生と同じ、小学生までと同じ 1 医療機関月 200 円へと拡充を目指したいと考えておりました、これの実施に関しましては、システムを改修しなければいけないものですから、これの準備期間がそれなりにかかるものですから、令和 9 年、来年の 4 月、次の年度冒頭には、これをなんとか間に合わせたいというふうに考えておりました、この点について、知事として、ぜひご一緒させていただけないかということをお願いしたいというところでございます。

#### ○西脇知事

はい、ありがとうございます。市長の公約の時からの経緯もあるし、市会の決議も踏まえて、我々も今言及がありました福祉医療制度のあり方に関する意見聴取会議、福祉医療制度なんで子ども医療だけじゃなくて、幅広い分野にして議論する。これも令和 6 年 11 月に始めたのも、そういう市長の意向を受けて、検討を開始したという経緯があります。

委員の皆様からは、拡充する場合は財政への影響もあるんですけど、医療保険財政に与える影響もちゃんと見た方がいいよとか、少なくとも一定の自己負担は設けるべきじゃないとか。あとやっぱり府内の市町村で見ると、やっぱり全体としてはもう中学生までの負担軽減の動きがあるので、府もそろそろ制度を拡充する時期に来てるんじゃないかというようなことで意見をいただいておりますので、我々も京都府内の京都市以外の市町村の状況も踏まえながら、京都市と歩調を合わせて取り組んでいきたいなというふうに思っております、これまでこの意見聴取会議、制度を揉んでまいりました。

今のシステム改修ということであれば準備期間が必要だという京都市の意向も踏まえまして、今回、そういうことをご提案をいただいたので、合意事項として取りまとめるとすれば、市町村の状況や意見聴取会議の意見を踏まえ、令和 9 年 4 月から通院の医療費の自己負担限度額を中学生まで月 200 円に拡充することについて、府市双方で取り組むことということ合意事項とした上で、それぞれ予算等も関連いたしますし、関係者の意見もあるので、そこはきちっと合意形成をしながら進めたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

#### ○松井市長

よろしくお願ひします。ありがとうございます。

#### ○西脇知事

じゃあ 2 つ目は以上でございまして、次、3 つ目、これは前回ちょっとだけ話題になりました、鴨川周辺の環境整備について、もう少し掘り下げて議論をしたいなというふうに

思っています。この件については、まずは冒頭、市長の方からも、鴨川について発言よろしくをお願いします。

#### ○松井市長

はい、これは我々から言うと所管外の問題をずっと知事にいろんな形で鴨川4とかね、いろんな形で鴨川を話題にさせていただいて、今回はぜひ鴨川というものの価値、特に今この季節になると、大学生、新しく入学された学生さんも含めて、鴨川ベリをこう歩いておられる方々、そして観光の方々もゴールデンウィークの最中、本当にたくさんの方々が鴨川を歩いておられます。同時に、その鴨川というものは非常に素晴らしい、我々から言うと、京都の魅力ナンバーワンにあげる方々も多いような素晴らしい観光資源でもあり、市民の憩いの場であると同時に、しかし他方で、やはりこれから出水期になってきますと、増水するというリスクもあります。

あるいは去年の11月でしたかね。先斗町と木屋町の間のところで火事がありました。幸い、あの時は人的被害はなく鎮火できましたけど、ああいう時に、どのように、例えば先斗町、たくさんの方が混み合う中で、どういうふうに災害時の対応というようなことも考えると、この鴨川というものを整備するということの必要性っていうのは、単に憩いの場ということだけではなくて、災害時にどう人が人流を逃すかというような意味でも大切なことというふうに思っております。

特に、その三条大橋から四条大橋の間の鴨川右岸の河川敷、あるいは先斗町っていうのは、本当に大勢の人々の往来がありまして、そういう避難の課題というものも必要であります。大切であります。三条から四条のちょうど真ん中あたりに、先斗町公園っていうのがあるわけではありますが、あそこをあのあたりを1つの、鴨川とその河川敷から先斗町にこう出てこれるところなんで、あそこをぜひ通路を作って、そこにまた先斗町公園からも河川敷に降りていけるし、何かあった時にお互いに人が行き来できるような、そういう接続を考えてはどうかなと。そうすると、府民、市民の皆さんから見たらいざという時の避難路の確保にもなって安全性の向上が図られますし、日常的にもその鴨川と先斗町の間のような往来の、新たな往来も生まれますし、我々は新京都戦略の中でも「公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト」というふうに掲げさせていただいておまして、鴨川という河川敷、鴨川の管理自体は京都府の管轄であります。その近くの道路と人の賑わい、往来をどうつくるか。安全性を確保できるかという意味では、その点をなんとかあの府市協調でできないか。

それからさらに言えば、これもずっといろいろ試行的なことをやらせていただいておりますが、三条・四条間での夜間の往来で、これはナイトタイムエコノミーという意味でも必要だと。あるいは一部のエリアについて言うと、例えば、令和6年度に、これは実証実験をやっていますが、川端通りの東側のこのせせらぎの道において、例えば、夜間景観づくり、歩行空間の整備、安全性の確保ということでも、まだまだその改善の余地があるんじゃないかと思っております。そういう、ちょうど三条・四条間で、鴨川と先斗町の結節ポイントをあそこの公園のところにつくれないかということと、それから夜間景観づくりという

もので、さらなる府市協調ができないかということをご提案させていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

#### ○西脇知事

はい、ありがとうございます。まずは、先斗町公園の話をして、副市長さんは覚えてはるかもしれないですけど、門川市長時代に、あそこのまちづくり協議会が国のまちづくりの表彰も受けてたりして、ベースとして受け皿もしっかりあると思ってますし、避難としての安心安全のためもあるし、賑わいづくりとか憩いの場としてということもあるので、せっかく公園の存在があるので、これはぜひ良質な河川空間とまちづくりとを融合をさせていただきたいなというふうに思いますので、これはぜひ一緒になって進めさせていただきたいと思います。

また、夜間景観づくりについては、また改めて我々の方も検討させていただきたいと思います。

私の方から、若干提案というか、これはお願いの部分が入ってるんですけども、私が生まれ育ったからというわけじゃないんですけども、最近、高瀬川が見事に再生プロジェクトで、私も近所なんて見違えるようなことになりました。一方で鴨川の方を私はジョギングしてますけど、右岸側を下がっていきますと、五条通で河川敷がなくなって、そこで上がると、そこから高瀬川に行こうと思うと、一旦五条通に出て、河原町の交差点まで行って信号を渡って、また高瀬川に戻る。そんなコの字型に行かないといけないっていうので、なんとかここの回遊性を高められないかということを考えて、なかなか事務方は抵抗が激しかったんですけども、まあまあちょっと行くだけやないかと。五条通の下を渡るだけであれば、いや全体となると、多分、治水の断面があそこ一番細いんで、そんなに縮められないと思います。

上流の河川整備が少しずつ進んでいるという効果はあるんですけども、少なくともあの高瀬川の五条のところタッチできないかという話をしておりまして、なんとかこれをできないか。ただ、そのためには、今度は京都市と一緒に、あそこの設計とかをしていかなきゃいけないというふうに思ってるんですが、この辺はいかがでしょうか。

#### ○松井市長

大変ありがたいお話で、おそらくウェイト的に言うと、圧倒的に府の領域で、我々はおそらく、その上がり口をどう作ってそこをどう接続するかぐらいのことで、圧倒的に府の事業だと思うんですが、これは我々も、特に菊浜エリアと言われているところが、高瀬川沿いが、いろいろ民間のご寄付もいただいて非常に良くなって、あそこをもうちょっと菊浜エリアの北側だけでも。

抜本的に五条から下の右岸側というのは、なかなか構造が違うということで簡単にいかないにしても、今知事がおっしゃった前からランナーとしてあそこをこうという話は伺ってたんで、それがもし今おっしゃったような形で、ある程度、我々も協力させていただいて、あそこがすっと通って、もうちょっとそこから南側で接続するというふうにできたら、

大変素晴らしいことかと思えます。

#### ○西脇知事

その辺はかなり具体的なことをしないといけないので、今日のところの合意事項としては、我々が管理している、いわゆる河川管理としての鴨川の河川空間と、京都市が管理されているまちづくりの空間、これを府市連携で一体的に整備をすると。その中の具体的課題では、先ほど出た先斗町公園なり、この五条通の話であります。そのあたりについては、一体的に整備をするということで合意事項とさせていただきたいと思えます。よろしくお願ひしたいと思えます。

ちょっと時間が押しましたので、次に銭湯。これは令和8年度当初予算では、府市連携で予算計上して、子どもの銭湯利用の促進をしましたがけれども、これについて、さらに、松井市長の方から何かご提案あれば、ご発言よろしくお願ひしたいと思えます。

#### ○松井市長

これもありがとうございます。あれ2月でしたかね、災害時の連携協定を浴場組合の皆さんと、京都府と京都市との連携協定。あの時、わざわざ市役所まで足を運んでいただきましたが、まあそれも含めて、銭湯のこの4月1日から、府市協調で子どもの無料化事業。私もゴールデンウィークに銭湯に行って、実際にご意見を複数の銭湯に聞いてきましたけど、非常に喜んでおられました。当初、4月1日は我々ももうあれは（2月補正予算の）繰り越したもんですから、とにかく4月1日から始めなきゃいかんということで、知事選挙の真っ只中にあの無料化事業は開始させていただいて、最初は浸透どこまでしてるかなっていうのはありましたが、やっぱり銭湯の組合の方々もいろいろキャンペーンをしていただいて。

ただ、それをさらに、このゴールデンウィークもお子さんも使っていただいて、ぜひ続けてほしいとかいう声もいただいておりますし、とにかく子どもたちが銭湯を体験できた。ゴールデンウィークにある銭湯に聞きましたら、結構大勢の子どもたちが体験して、これまでなかったことが実際実現できているという話があるんですが、これさらに、この機会を生かして、もう少し子どもたちが銭湯に自ら足を運びたくなるようなキャンペーンをやっていくとか。あるいはこれはもともとのトップミーティングで申し上げたと思うんですが、公衆道徳を学ぶ場としての銭湯であるとか、家族の絆をどう銭湯を經由して取り戻してもらおうか。もうちょっと言うと、コミュニティの拠点としての銭湯、どういうふうな居場所に今後育てていくのかというようなことをしっかりと連携し、府市連携をし、また組合の方々ともよく協調して取り組んでいきたいと思うんですけど、まあそのあたり、知事いかがでしょうか。

#### ○西脇知事

はい、ありがとうございます。これ都道府県によって銭湯の残り具合って、全体的には京都でも減ってきてるんですけど、でも残ってるっていうことと、あまりほとんど残って

ないような府県もあって、そういう意味では、残っているというのはそれなりの理由があって、まあ地域コミュニティが残っていることとの兼ね合いでもあると思います。

ぜひとも、銭湯はやっぱり市長がいつもおっしゃっているように、京都が誇る文化の1つだと思っています。それを引き継いでいくためには、やはり若いうちから銭湯に親しむことを経験しないと全然違うと思うんです。子どもの頃に銭湯に行ったことがある経験があれば、まあそこは非常に継承しやすいかなというふうに思ってます。

無料の話は、確かにインセンティブとしては非常にいいですし、まあこの際と思うんですが、もうちょっと子どもが進んで行きたいなと、行ってみたいなと思うのであれば、また銭湯の組合の方もキャラクターを作ったりとか、いろいろ努力されてるんですが、もう少しインセンティブになるようなことも、もしできれば、それも組合と京都府、京都市が一緒になって戦略的にできれば効果がある。そうすると、大人も一緒に行くとすると、利用も進むし、それから銭湯文化の継承にもつながるというふうに思ってます。ぜひとも、これは何らかの形で。ただ、料金の割引だけじゃなくて、内容も充実させる必要があるかなというふうに思ってます。

もし、市長の方でそういうことであれば、やはり改めて、府、市、関係組合が協調して、もっと子どもが使いたくなるような仕掛けづくりとか、あと入浴のマナーみたいなものがあると思うんですよね。それからやっぱり地域における銭湯の役割を学ぶような機会を創出するとか、ちょっと総合的にそういうことを取り組むというようなことを、もし今日合意できればありがたいんですが、どうですか。

#### ○松井市長

はい、ぜひお願いしたいと思います。そして、ぜひ単に子どもを無料化するだけではなくて、今おっしゃったようなこと、あるいはなかなか銭湯大変なんですね。そのおっしゃった重油の問題であるとか、やっぱりああいうエネルギーをどうしても使う場所であるし、営業時間もやっぱり長く夜遅くまで頑張っていたらいいんですけど、その分なかなか担い手の皆さんから言うと大変で、高齢化している。ただ、幸い京都は若くて、それを継承していこうじゃないかっていうような動きも出てきている。そういう銭湯のあり方自体も、今後、考えていくような機会も共に作っていければ、これは組合、あるいは京都府さん、組合の監督官庁は京都府ですからね。

#### ○西脇知事

公定料金だというところが、やっぱり営業努力といっても料金政策はできない立場に彼らはおられるもんですからね。そういう意味では、やはり一定、行政とのタイアップっていうのは、不可欠な産業分野だとも思ってます。

#### ○松井市長

ぜひ一緒にやらせていただければ。

○西脇知事

うまくね。全国でもすごいいろんな先進的事例がありますね。銭湯を使っているいろんなことをやったりとかあります。

○松井市長

神戸の例なんかもありますけど、神戸の場合は神戸市単独でやっておられるんですけど、やっぱり銭湯の料金の上限額って、やっぱり都道府県が指定していますし、じゃあ、コストがアップしたからって上げてしまったら、じゃあますます銭湯離れが進んでしまうという、この痛し痒しの塩梅っていうのもありますもんですから。

○西脇知事

続いて、残りの時間で産業振興の分野についてちょっと議論したいんですが、産業振興分野、たくさんあるんで、あんまり拡散しないようにということで、私としては今日は2つ。

1つは伝統産業と、もう1つは「AI×半導体×ものづくり産業」ということで議論したいんですが、まず、伝統産業についてのお話をさせていただきたいと思うんですが、これ令和6年度の一番最初の年度の府市トップミーティングで取り上げた後に、昨年度に府市協調の伝統産業対話会、私は残念なことに第1回目は出られなかったんですが、2回目、3回目に出させていただいて、極めて斬新な、なかなか気づかないような論点もたくさんありましたし、伝統産業に直接携わってない人からも、なかなか素晴らしい意見もいただいたということなんですが、これもあの選挙中にも喋ってたんですが、日本では伝統、伝統ということで、若干古めかしいイメージで語られている匠の技が、実は海外ではもう若者をはじめとする多様な世代から非常に新鮮だし素晴らしいとか、デザインがすごいとか、色彩がすごいというようなことを言われてます。

それも受けて、選挙公約でも「KYOTO 伝統こそが最先端プロジェクト」っていうのを打ち出したんですね。だから、たまたまなんですけど、今、国が地域未来戦略を作っておられて、そこに自治体に地場産業成長プランというのを策定するというのが求められてまして、地場産業だから非常に広いんですけれども、そういう意味であれば、じゃあこの中に京都の伝統産業の振興っていうのは、この政府の地場産業成長プランとも非常に親和性が高いんで、しかも都道府県と市町村が、一応共同提案も可能。単独での提案も可能なんですけど、共同提案も可能なんで、私としては、せっかく伝統産業のことを取り上げたので、国がそういうふうに言っておられたら、この成長プランに共同で手を挙げてはどうかと思います。まず、その辺も含めて伝統産業についての市長の考え方をお聞かせいただければと思います。

○松井市長

今おっしゃった国の地場産業成長プランに府市協調で提案していただけるという、その可能性は大変我々としてありがたいことだと思います。府市協調の伝統産業対応をやって

いて、今まさに知事がおっしゃったのと同じ感覚を私も持っていて、やっぱり伝統産業を単に古めかしいものだというふうに考えるのではなくて、むしろそこがもう日本ならではの魅力の源泉なんだというふうに、実際、海外の方々からは非常に注目されている面が強いので、やはりそこを国内の例えば和装産業というものが、ちょっと需要が縮んでるのではないかと。この前も友禅染めのマーケットが、出荷額がまた減ったというようなニュースが出てましたが、それだけで見るのではなくて、それを他の用途への応用であるとか、あるいは同じ和装でも海外の人たちが、それに対して目を輝かせて見ておられるというようにも含めて、やっぱり海外マーケット、あるいは海外のクリエイターから見た時のこの日本の技術。日本ならではの技術ってというようなものに注目するというのはとても素晴らしいことですし、それを国に対しても提案していくというのもいいと思います。

ゴールデンウィーク中に、昨日まででしたけど、フランスと京都、しかもそれは単に京都だけではなくて、日本の様々な繭の産地をめぐるドキュメンタリー映画を細尾さんがプロデューサーをなさって、京都シネマさんで掛かっていましたが、むしろ海外の方々がいよいよと日本の美しさ、京都の美しさ、そういうものをしっかり認めておられる。それも例えば、織は京都市内かもしれないけど、その糸を作っているのはどこであるのか、あるいは繭の養蚕をされているのはどこであるのかということを考えていくと、やはりより広域に京都府さんと京都市がしっかり連携して、この伝統産業の将来について光を当てていくようなプロジェクトを国に対して提案していく。

場合によっては、海外に対してもっと売り込みとか、あるいは海外の発想でそれを見ていただく、その素材を見ていただくとかいうことに取り組むというのは、私はとても伝統産業のイメージを若い人たちの中で変えていくためにも大切だと思っておりまして、やっぱり我々がいろんなヒアリングをしていく中でも、伝統産業がこれからも発展するためには、いろんなライフスタイルの変化、あるいは消費者に選ばれるのは付加価値の高いもの、あるいは体験をどう作っていくか。

特に、国内市場が縮小しているとするならば、その海外販路の開拓も含めて、新たな取組が必要であるというご意見もいろんな方々からいただいているところでありまして、ぜひ地域未来戦略における成長プランの策定をはじめとして、伝統産業を京都の強みとして世界に発信し、展開していくということで、府市協調で、単に下流だけではなくて、上流と言いましょか。それはものによって違いますけれど、それを見ておられる京都府としっかり連携して取り組んでいきたいと考えます。

## ○西脇知事

はい、ありがとうございます。実は産業政策でもあるし、伝統工芸というのは、文化を支えている部分もあるので、やらなきゃいけないことは幅広いとは思いますが、まずは戦略プランにチャレンジすることによって、一定の頭の整理とか、課題の抽出にもなると思ってますので、ぜひそこはチャレンジをさせていただくということ。

もう1つ、今海外の話も海外展開に向けた調査の話もありましたけど、何もかも同時に

手をつけるというよりも、ある程度そういうプランを作った上で、何から始めていこうかというようなことも含めてということと、やっぱりいろんな方の意見もせっかく聞いているので、それもぜひ生かしていきたいなというふうに思っています。

いずれにしても、伝統産業といっても古めかしいものじゃなくて、まさに世界でつながる先端産業へと成長させるということで、伝統産業分野における地場産業の成長プランを府市連携で策定するとともに、これまでの取組での知見等を踏まえた海外展開をはじめとする様々な調査について具体の検討を開始するというので、今日の合意事項とさせていただきます。幅広いので、まずよくこれは整理して、対応させていただきたいというふうに思っております。

そしたら最後、「AI×半導体×ものづくり産業」。まずは令和6年度のトップミーティングで議論した後、これは地道に実務的に展開していこうということで、昨年度から半導体関連の展示会への出展によるビジネスマッチングの創出とか、半導体サロンを開催して、最先端の研究開発である情報交換を産学連携で進めてまいりましたし、先日17日に半導体に関連する企業を対象とした調査を実施した上で、その成果を半導体関連企業マップとして公表しました。公表を急いで事務方に聞いたら、やっぱりせっかく作ったので、協力していただいた企業等からその成果を早く生かしたいので、是非早くそれを教えてほしいという声を踏まえて公表したということでございます。

この調査の中身は細かく言いませんけれども、どういう分野に京都企業の強みがあるかということとか、どういう製品開発に関心を持って、AIを活用した製品開発への関心が高いかということとか、これはマップで、具体的な企業もリストアップしてますし、地理的な分布も掲載しております、これは広くお使いいただけるかなと思っております。

マップがまず必要なんじゃないかという声を受けて作りましたので、この後、抽象的な話になるかもしれないんですけど、市長の方から、半導体について何か今後の話も含めてお伺いしたいと思います。

#### ○松井市長

はい、ありがとうございます。府市協調で様々な関係団体も連携して、こうやって調査させていただいて良かったと思うんですね。まず、今の半導体産業って非常に間口が広くて、それぞれに奥行きもある世界で、それについて、ある一定の今の現状をマッピングという形で共有できたというのは大きかったと思います。その中で、京都はグローバルニッチ、世界シェアを持つような大手企業が核になりながらも、地域企業とか大学が近接して一体的な産業基盤を形成してるんだということが明らかになったというのは大きいと思うんです。

さらに、その中で我々として大事だったなと思うのは、今おっしゃったような、例えばパワー半導体分野に多くの企業が絡んでいる。あるいは、製造装置分野でそれこそ洗浄とか分析計測というような世界的な技術を持っている企業がある。

さらに、それを支える中小企業が一体的に集積しているっていうのは、京都の強みだと

思うんですね。それをさらに行政として、どう次の課題の解決に向けて取り組んでいくかっていうのが今後問われているところです。

我々から言うと、ビジネスマッチングが大事だという声が6割あったというのがすごく大事なことだと思ひまして、いかに先端技術をそれぞれ使う側から言って、自社の製造現場に取り込みたい。取り込むにあたってどう取り組んだらいいかっていうところがもう一つ課題になっているということをどうやってお手伝いするか。今後は、その半導体を作る製造側のニーズに加えて、AIとか半導体を使いこなすっていう実装とか活用という面での視点も重視する必要があると思ひておりまして、令和8年度は府市連携で企業が求める技術とか分野等きめ細やかに汲み取ったマッチング支援を行っていくべきではないかなと思ひております。

加えて、京都市としては、AIとかロボティクスの現場導入支援、あるいは京都の強みである分析計測技術のプラットフォーム化っていうものを支援していきたいというふうに考えております。

府がどちらかというグローバルな仕組みづくりを主導していただいて、市が現場の課題に対するきめ細やかな実装を支援するというような形で、府市一体となって、この半導体関連の実装を支援するというところに取り組んでいくというのが非常に大切ではないかなと思ひております。

そうした府市協調、あるいは関係する府市それぞれの団体。我々で言うとアステムとか産技研とかありますけれど、そうしたものが強みを存分に発揮して連携していくっていうことが、今後の広い意味での半導体で、半導体関連のAIを中核にしたものづくり産業の支援という意味では大切なのではないかなと思ひております。

#### ○西脇知事

ありがとうございます。実は「AI×半導体×ものづくり産業」については、戦略を作ることになって、今策定中で、実は戦略の一環として取り組んだんですが、先ほど言ったように、これは早めに公表してほしいという声があって公表しておりますので、これも当然マッチングのための1つのベースです。

この間、ある展示会で島津の上田さんが、今、具体的にこの2つの技術が欲しいというのを中小企業の皆さんに具体的に提示されてましたんで、そういうものを持っておられる方があったら応募してくださいとまで言っておられて、そんなことがどんどんできてくればマッチングにもつながるというふうに思ってます。市長がおっしゃった京都府と京都市の役割とか、あといわゆる公設試験研究機関の役割とかっていうのも、多分戦略の中に作る。行政がやることはそんなに大きなシェアは占めてないと思うんですけど、その中で我々ができることはどういうことかということ、その戦略の中で位置づけていただいた上で、これは改めて、この府市トップミーティングで具体的にこういうことしましょうということをお話したいと思うんですけど、その辺でよろしいですか。

#### ○松井市長

いいと思います。あとは大学との関係も当然今後出てくるとは思いますけれど、すでにいろんな共同研究が採択されているわけでありまして。

#### ○西脇知事

じゃあよろしくお願ひしたいと思っております。今日、私が予定していたテーマは以上なんですが、マスコミさんおられますんで確認しておきますと、1つ目は合意事項っていうことではないんですが、最近の中東情勢の緊迫化に伴う社会経済情勢の対応については、臨機応変に対応していこうということ。

それから、具体的な合意事項としては、子育て医療について、通院について小学生までの200円を中学生まで拡充することを含めて、その実現に向けて取り組んでいこうと。

鴨川については、具体的には先斗町公園と、それから五条を渡るところが具体的に出来ましたけれども、その2つの具体的な項目も含めて、河川空間とまちづくりの空間との一体的な整備について取り組む。

銭湯については、料金については令和8年度当初から始めてますけれども、さらに利用促進につながるようなものやっいていこうと。

伝統産業については、地域未来戦略の中の、地場産業成長プランに府市連携で取り組むとともに、海外展開への調査なんかも含めて、さらに進めていこうということの合意ということで、さらに進めていきたいと思っております。

いずれにしても、本日も様々なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。これからも今の議論を踏まえて、3副知事、3副市長を含めて、事務方の方でさらなる詰めをよろしくお願ひしたいと思っております。市長の方からも一言よろしくお願ひします。

#### ○松井市長

はい。今回も本当に国際情勢に絡むようなものに対して、府市協調で、どういうふうに関度高く情報を捉えて、国に対して働き掛けを行うかというふうなところから、非常に具体的な各論で言えば、特に私個人から言うと、子どもの医療費の中学生までの拡充っていうのは、この間、私が市長になって以来ずっと、府において、全府的な取組、福祉医療制度の全体の中で位置づけいただいたものが、大きく前に進んだというのは非常に感慨ひとしおであります。

それから、これから若者が京都から流出しないで、いかに子育て期、あるいは卒業した後、京都に残って子育て期をどう京都に定着していただくかという大きな面で、例えば先ほどの奨学金の問題は、卒業した後の歩留まりを高めていく。そして子どもの医療費の問題は、やはり子育て期において、近隣の市町に流出していくというところは、京都で子育てしたいという人は、やっぱり京都でしていただくという、その選択をしっかりと残していくためにも、大切な前進をいただきました。

各論として、銭湯のような問題であるとか、あるいは鴨川という非常にシンボリックな、京都にとっての非常に憩いの場であると同時に、やはり安全性を確保しなければいけないというふうなところについて、府市協調で成果を得られたのは、新年度のスタートに飾る

にふさわしいトップミーティングだったのではないかなと事務方の皆さんにも感謝を申し上げたいと思います。

○西脇知事

ありがとうございました。以上で終了させていただきます。